

1000年単位でモノを後世に継承していくマネージメントの在り方と課題、そして提言 ～コミュニケーション・マネージメントの視点から～

1000年単位でモノを後世に継承していくマネージメントはいかにあるべきか。そして、それを体現する際の課題は何かを共有した上でコミュニケーション・マネージメントの立ち位置から提言する。

昨年度の日本博物館協会主催の博物館大会（札幌）においても、モノを1000年単位で保存継承していくことが提起され、併せて、国立沖縄自然史博物館設立準備委員会においても標本資料の収集・保管・活用が大きな議論の柱となっている。

反面、各館が共通して有している収蔵庫の狭隘化問題は、行政側の予算や意識の問題とも密接にリンクしている。このような背景のもと、関係機関、関係者同士、さらには、利用者側も巻き込んだ形で議論する場とする。

日時 2022年12月11日(日)12時30分～16時30分（開場12時00分）

会場 中央大学後楽園キャンパス(東京都文京区春日1-13-27)

参加者 学会員 非学会員等(40名まで、先着順)

プログラム

(1)研究部会趣旨説明(10分) 12:30～12:40

新 和宏(JMMA理事・同コミュニケーション・マネージメント研究部会長)

(2)基調講演(60分) 12:40～13:40

「今、自然史財の重要性を考える～国立沖縄自然史博物館設立計画とあわせて～」

講師：西田 治文氏(中央大学理工学部生命科学科教授・国立沖縄自然史博物館設立準備委員会委員・学術会議自然史・古生物学分科会委員長)

(3)ケーススタディー(40分) 13:40～14:20

①「行政サイドからミュージアムの資料を考える」20分

講師：佐久間 豊氏(元千葉県立中央博物館長・元千葉県文化財課長)

②「学習者の視点からミュージアムの学びを考える」20分

講師：永島 絹代氏(港区立みなと科学館教育普及チームリーダー・元千葉縣市原市公立小学校長・JSTサイエンスウインドウアドバイザー・千葉県市原市地磁気逆転地層保存活用検討委員・JASC協会会員)

(4)集団討論 (120分) 14:30～16:30

「ミュージアムのモノはいかにあるべきか！」

・ファシリテーター：新 和宏

・西田 治文氏 佐久間 豊氏 永島 絹代氏